

2022/10/27

日本インターネットガバナンスフォーラム2022
オンライン海賊版の現状と、対策の現在地点

ICANN・レジストリ・レジストラの観点

前村 昌紀（まえむらあきのり）

日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

政策主幹 maem@nic.ad.jp

ICANNにおける「DNS Abuse」の議論、契約上の義務

1

- **「DNS Abuse」議論の盛り上がり、但し定義まちまち**
 - 「DNSセキュリティ脅威」だけが「ICANNの責任範囲」
 - DNSセキュリティ脅威に関する技術的な調査・公表（DAAR）も実施
 - 「ICANNはコンテンツポリスではない」
 - 政府関係者（GAC）などからは広めの定義も見られる
- **契約上の義務はあるが、「違法性判断」などに限界**
 - レジストラは一般からの不正利用報告に対する対応義務があるが、対応の内容はレジストラの裁量
 - 登録情報の正確性は、多国籍多言語の環境では特に追及が難しい

海賊版サイト対応に見られる不満とその原因

- **ドメイン名の登録者情報から運営者の同定が可能では？**
 - 登録情報の正確性：
さまざまな国や言語の登録者がおり、正確性確認の限界、KYCの限界
 - 登録情報の公開：
GDPR準拠で個人情報公開が困難に。開示請求の煩雑さ
(SSADとして取り組み中)
- **「明らかに海賊版なのに...」**
 - コンテンツの真正性の判断は（特に他国コンテンツは）困難
 - 違法性の判断は各国の裁判所、法執行機関でなければ基本的に不可能

今後の展望

- レジストラホッピング、ドメイン名ホッピング、虚偽登録...



- **海賊版に限らず、不正・不法行為者に共通する振る舞い**



- **犯罪抑止性をどう確保するのか**

- より精緻な登録者情報の管理を求めるようにするのか
- 違法性の認定が裁判所でしかできないのなら「法定外紛争処理」のような枠組みを作れないか：Trusted Notifierプログラムの拡大？

- **新たな方針を作るには、コミュニティプロセスへの参加を**

ありがとうございました

4

ICANN・レジストリ・レジストラの観点

2022/10/27 日本インターネットガバナンスフォーラム2022
オンライン海賊版の現状と、対策の現在地点

前村 昌紀（まえむらあきのり）

JPNIC政策主幹

